

クラウド型物流システム、月2万円から

■ エクサス、次期NACCSにも無償対応

物流情報システムのクラウド・サービスなどを手掛けるエクサス(神戸市中央区、鶴田純社長)は、中小物流企業向けのクラウド・サービスを開始した。NVOCC業務、海貨業務、船舶代理店のB/L作成業務をそれぞれ対象とする3種類のシステムを提供。来年10月に更改予定の次期NACCSにも無償で対応する。日常業務を手軽にシステム化できるよう、既存のクラウド・サービスから機能を絞り込み、月額利用料を2万円から設定。年内は初期費を無料にするキャンペーンも実施する。

エクサスは船社出身の鶴田社長が情報システム部時代の経験などを生かし、1992年に設立。「物流業者は国内外に拠点を広げている。それに合わせて情報システムもネットワーク化し、拠点間をシームレスにつなぐ必要がある」(鶴田社長)として、顧客が情報システム

を所有するのではなくインターネットを通じて利用するクラウド・サービスの開発に力を注いできた。

現在、クラウド・サービスとしてはNVOCC向けの「Web-NVOCC SaaS」、海貨業者向けの「eForwarder SaaS」、船社・代理店向けの「Web-Shipping SaaS」を提供しており、口コミで利用者を増やしている。今回、販売を開始したのはこれらのサービスの簡易版「Basicシリーズ」。「Web-NVOCC Basic」、「eForwarder Basic」、「Web-Shipping Basic」があり、それぞれNVOCC業務、海貨業務、船舶代理店のB/L作成業務に必要な機能のみで構成されている。

「一般的に、情報システムの導入には多額の費用がかかる。そのためにシステムを入れても費用対効果が低いとされるような業務量の事業者でも、低料金で業務を効率化できるようサービスを設計した」

と鶴田社長は話す。例えば、NVOCC向けの「Web-NVOCC Basic」であればハウスB/Lの月間発行件数100件程度までが利用の目安。海貨業者がNVOCCを事業の一部として手掛けている場合などでも既存の海貨システムと併用しやすい。また、将来の業務拡大に応じて通常版のクラウド・サービスに移行することも可能だ。

エクサスのシステムの特徴は柔軟性にあるという。「事業環境の変化に合わせて柔軟に改良可能」(同)で、顧客は大企業から中小企業までさまざま。各社のニーズに対応することで顧客の物流ノウハウを組み込み、利便性の高いシステムを作り込んできた。「システムは実用のレベルに達したので、今後はその良さをアピールしていきたい」と鶴田社長。まずはBasicシリーズで物流情報システムの利用に新たな選択肢を示す。